

令和元年度第1回「防府市農林業政策懇話会」 議事録等

■開催日時・場所

令和元年5月17日（金）午後3時から午後4時50分まで
防府市役所1号館3階南北会議室

■次第

- 1 開会
- 2 議事
 - (1) 平成30年度第1回「防府市農林業政策懇話会」での課題等に関する取組及び対応について
 - ① 課題等に対応する事業及び取組について
 - ② 「農林業の知と技の拠点」形成について
 - (2) 防府市の農林業を活性化する提案等について

■配布資料

	資料名	番号
1	防府市農林業政策懇話会委員等出席者名簿	【資料1】
2	防府市農林業政策懇話会配席図	【資料2】
3	平成30年度 第1回 防府市農林業政策懇話会での意見及び提案等一覧	【資料3】
4	意見及び提案等に係る課題分類及び対応事業等について	【資料4】
5	山口県の農林業施策	【資料5】
6	防府市の農林業施策	【資料6】
7	山口県「農林業の知と技の拠点」形成基本計画【概要版】	【資料7】

■出席者名簿

敬称略・順不同

種別	氏名	所属／品目	出欠
会長	池田 豊	市長	出席
農林業関係団体	田中 勇	山口県農業協同組合防府とくち統括本部長	欠席
	戸田岸 巖	山口中央森林組合代表理事組合長	出席
	藤井 伸昌	防府市農業委員会会長	出席
	原田 剛	山口県農協青壮年部組織協議会顧問	出席
流通関係団体	吉武 健志	(株)ユアーズバリュー代表取締役社長	出席
	橋本 保	農協直売所出荷者協議会会長	出席
農業関係者 (品目代表)	原田 道昭	米・麦	出席
	光井 憲治	米	出席
	小林 淳治	野菜	出席
	戸倉 正秀	花き	出席
	倉重 宗眞	柑橘	出席
	河本 雄治	畜産	欠席
農業関係者 (・農大研修修了者 ・UJIター ・農業後継者 代表)	江越 律子	野菜	出席
	原田 慎司	野菜	出席
	押元 大作	野菜	欠席
	柳 俊則	花き	欠席
	湯面 芳恵	果樹	欠席
	池田 英雄	畜産	出席
公募委員	石川 眞平		出席
	森重 豊		出席
オブザーバー	沖 敏雄	山口県農林総合技術センター 農業担い手支援部部長 (山口県立農業大学学校校長)	出席
事務局	赤松 英明	産業振興部 部長	
	白井 智浩	産業振興部 部次長 (兼) 農林業の知と技の拠点連携推進室 室長	
	藤井 正明	産業振興部農林水産振興課 課長 (兼) 農林業の知と技の拠点連携推進室 室次長	
	池田 晶則	産業振興部農林漁港整備課 課長 (兼) 農林業の知と技の拠点連携推進室 室次長	
	藤本 奉文	農林業の知と技の拠点連携推進室 室次長補佐	

■会議録

1. 開 会

市長挨拶

2. 委員紹介

(事務局から各委員の紹介)

3. 平成30年度第1回「防府市農林業政策懇話会」での課題等に関する取組及び対応についての説明

(事務局及びオブザーバーから資料3から資料7を一括説明)

4. 各委員、オブザーバーによる意見

A委員

J A山口県として、県全体では販売取扱高300億円を目標にしている。目標達成のためにJ A山口県独自の農業振興対策事業として、支援内容、対象要件、支援額等を明確にした生産拡大支援制度を構築し、生産拡大に努めていく。その中で、防府は玉ねぎが指定産地であるので、そのような制度をうまく活用し、今後5年をめどに売上高5千万円を目標に掲げて動きたい。なお、検討課題も多いが、玉ねぎのほかにもう一品種も検討中。

また、担い手経営体の複合経営による経営の安定化、生産部会を軸とした生産拡大の取組、農産物直売所の品目拡大なども併せて今後進めていきたい。

全体的な生産拡大については、出荷量増大によるJ A販売取扱高、購買品の購入高の増大に努めたい。部会を中心とした今後の支援対象は、生産部会員であり、部会事業に沿った生産販売を行う生産者等に重点を置いて、農業を活性化するために目標掲げて動くことを計画しているところ。

会長

ありがとうございました。新しいJ Aの説明であったが、防府は玉ねぎが指定産地になっているが、春菊など、他の品種の産地強化も期待している。

B委員

この6月1日をもって、山口中央森林組合と山口阿東森林組合が合併し、山口県中央森林組合として発足する。

合併の理由としては、林業を取り巻く情勢にある。長引く木材価格の低迷による採算の悪化や、山林所有者の高齢化、不在地主の増加、所有者不明、境界不明地などたくさんの問題を抱える中で、この4月から、新しい森林経営管理制度が始まる。経営管理が行われていない森林を市町村が仲介となり、森林所有者と意欲のある林業経営者を繋ぐ新しい森林管理システムであるが、この機会に窓口をひとつにしてスタートすることとしたことが経緯。

しかし、このような制度を活用し林業の活性化を図ろうとしても、所有者の方が自分の土地がどこにあるのか、山がどこにあるのか、境がどこにあるのか分からないという

問題がある。防府市はかなり地籍調査が進んでいると聞いているが、まだ全部ではないと把握しているので、基本となる地籍調査を是非進めていただくことで、新しい経営管理システムも取り組みやすくなると考えている。

会長

新しい森林経営管理制度が今年から始まり、森林環境税は2024年度からの課税となるが、譲与税は今年から市町村への譲与が始まり、市としてもその所有者の確定など、計画を作ってしっかり対応していきたい。一方で市内でもバイオマス発電所が操業するが、間伐材の安定的な供給も期待している。

林業を取り巻く環境も大きく変わっているが、森林環境譲与税が始まるので市としてもしっかりと対応していきたい。

C委員

前回の懇話会で出た意見も含めて二点ほど意見を述べる。一点目は農機レンタルについて。専業農家、兼業農家問わず、個人の機械を更新するのが難しい現状があるという話をよく聞く。農機レンタルという仕組みが進めば、農業の維持向上に繋がると思う。

二点目は、ハウス栽培や露地栽培で出る廃プラスチックについて。全ての農家でかなりの廃プラスチックが出ている現状があり、JAで年一回か二回、まとめて処分する仕組みがあるが、追いついていないのが現状。量が増えてくると処分がさらに難しくなるため、クリーンセンターへの持ち込みでスムーズに処分できる仕組みができないか。

会長

農機レンタルや農機の共同利用は、防府市の農林業をどうしていくかという中での検討課題の一つ。

廃プラスチックについても、廃棄物の種類によって取扱いが変わってくるので検討課題の一つ。

D委員

農機レンタルは農業委員会としても市に要望しているが、なるべく急いで結論を出していただきたい。

農機といってもいろいろあり、シーズンで使用期間が短いコンバインや田植機まで手を広げると実現が難しいのではないかと思う。先ほど説明があったようにJAでは基幹重点作物の玉ねぎはレンタルの機械を揃えているが、他の品種は何にてこ入れするかという具体的な事を考えないと、なかなか進まないのではないか。管理目的の簡単な維持管理の機械であれば、多面的機能支払交付金や中山間地域等直接支払制度を受けている地域では、その地域で話し合っ用意できるものは用意して、理想としては地域間連携できるような取組も含めて、いきなり大きなことをするのではなく、ここでいろいろ考えて、それを補完できるような方法を市でまとめていただくとありがたい。

会長

農機の共同利用は調整が難しく、昔からの大きな課題。市としても、農協と一緒に考えていきたいと思っており、地域の農家との話し合いも必要。

E 委員 酪農をやっているが、牛の寝床に敷く敷料が県内でかなり不足しており入手が難しい。牛の衛生面にも影響が及び良質な堆肥ができず、今後、耕種農家への堆肥の提供も難しくなってくると危惧している。代替えとして、いままでJA大道からすくもをいただいていたが、それも手に入らない状況で困っている。

場違いかもしれないが、チップかすやのこくずなどを林業のほうから入手できる良い方法はないだろうか。

また、大道干拓組合と耕畜連携でWCSを作っており、これは組合との協議になると思うが、将来的には堆肥舎を建設することで、堆肥を使えるときに持っていくことができ効率化を図ることができる。

会長 ありがとうございます。チップかすやのこくずなどの敷料の件についてご意見はあるか。

B 委員 チップかすやのこくずなどの敷料の件については、製材業者との繋がりがないと難しいのではないかと。

会長 堆肥舎の話があったが、堆肥も重要なので検討課題とさせていただく。

A 委員 農協の生産部会に属し、小松菜でGAPに取り組んでおり、来週審査がある。生産部会としてGAP認証を取得できれば、団体での認証としては県内初となる。しかし、そのような方法で良いものを作っても、市場で高値がつかない状況で、前回の懇話会でも意見を述べたが、防府市公設市場の改革は必要と考えている。販売の方も何らかの力を入れていかなければいけない。地元の市場をもう少し活性化してもらいたい。

会長 市場に出荷してもらわないと始まらない話であるが、施設規模に比べて一部しか使用していないのは大きな課題だと感じており、今年、市の組織で市場担当を配置したので、積極的に検討していく。

F 委員 先ほど市場で価格がつかないという話があったが、相場安ということで、今の時代は安く売っても数が売れる時代ではないので、弊社としても価格より価値を伝えていきたい。そういう部分を進めていきたいが、なかなか需要と供給のバランスで野菜というのは値段がつかない時はどうしてもつかない。

特に防府市が農業を盛り上げていくために、先ほどの玉ねぎは指定の野菜ということだが、全ての野菜を高くというのは難しいかもしれないが、ブランド化の取組などで価格と価値を感じていただけるような、そして地域で消費していただいて、地域でお金を回していくような事を進めていかないといけない。生産者さんが一生懸命作っても価格がつかないと、新たに農業を始めてみようという気持ちにもならないと思う。

なお、GAP認証の商品を作られる事に関してはきちんと価値を伝えていきたいと思

っているので生産者さんと一体となって販売者側も進めていき、地域のお客様にも価値を分かっていたり取組を継続していかないと良い循環にはならない。魅力ある物づくりが大事になってくると思う。

会長 | ありがとうございます。他に何かご意見は。

G委員 | J Aの直売所に出荷しているのは、年配の方が多い。売れるものを作るべきと皆さんわかってはいるが、なかなか新しいことに挑戦していくことが難しい。お客さんの中には、「あの人のあの商品を買ってきて欲しい」と言われる方もいるようにファンが付いている商品もあり、そういうことも良いのかなという気がしているが、新しいことへの挑戦については、新規就農者と違い、昔ながらの生産者には難しい。

また、私は生産者として、はなこっりーを作っているが、100袋作ると前日の晩は1時までかかり、手間がかかる割には安い。昔は関係団体、関係機関も生産や販売に熱心だったが、最近はあまり感じない。

会長 | はなこっりーも山口県独自の野菜だが、伸び悩みの部分もあるのかもしれない。

H委員 | 1点目。先ほどの公設市場改革の話だが、昔は市内にもたくさんの八百屋さんがあったがどんどん少なくなっており、今では全国区のスーパーなどに変ってきている。そういう業者が地元の市場に入っていないこともあるが、まずは買受人を増やすことを検討されないと、農家が市場に持っていても買うところがいつも一緒なので、どうしてもスーパーに偏り安値の動きになっている。

2点目。農機の件だが、前回の懇話会でも意見を述べたように、耕作放棄地の所有者などが中古の農機をまだ持っていると思われるので、中古の農機の活用も検討してほしい。

3点目。先週、農大で開催された「農林業の知と技の拠点」形成に係る地元説明会に参加させてもらった。小規模農家が水稲以外で経営が成り立つようなモデルについての意見が出たが、せっきく防府市に拠点ができるので、こういう作物がいいですよという提案をしていただけるような施設になってほしい。

また、これまで、県などから多くの提案があったが、とても収益率の高い計画や経営モデルが示されるが、新規就農者などがやっても実際には計画のようにには到達しない。計画や経営モデルを示すときは、平均値や過去の価格に基づいたものをして欲しい。防府市で新規就農を呼び掛けてもなかなか続かない原因のひとつではないか。

なお、少量多品目での経営を目指す一年中休みがない。数品目で大きく農業をやれば、このあたりで休みが取れるという期間もできるが、少量多品目でいろいろなものを作るといって夢を描いてやっているとそのような事が起きてしまうので、品目の組み合わせによって休みが取れるような経営モデルを示してもらえそうな、拠点になってほしい。若い方は休みがないと続かないし、家族を持てば当然遊びにも行きたいと思うので

よろしく願います。

4点目。農繁期の人手不足対策で、農大生のアルバイトも助かるが、それ以外にも市民の中から労力派遣できる仕組みや組織の構築をお願いしたい。

会長

山口県への拠点に関する要望についてはしっかりと伝えていきたいと思っている。

また、労力支援については提案の趣旨を踏まえながら検討していきたいと思うが、法律があるため、良い知恵があれば皆様よろしく願います。

I 委員

地域で作った物を地域で消費することが大前提。JAの直売所で行った料理教室で、その場で買った野菜を使用して料理をすると、新たな使い方に皆さん喜ばれる。このように情報を提供することで受け入れてくれる消費者の方もいらっしゃるのので、例えば、山口県のぶちうま！アンバサダーや、SNSを活用した情報発信などで、生産現場の生の声を届けることが大事。生産者としても消費者を身近に感じることで活力になり、農業の活性化につながる。

会長

情報発信の重要性のお話、ありがとうございます。

J 委員

農協の柑橘部会長をしている。7年前までは部会員が115人いたが、現在は85人と減少している。防府市には「天神みかん」というブランドみかんがあり、品種を三種類に絞った一級みかんのうち、糖度12度以上、酸度1.1度以下、園地登録を行い、作業工程の管理まで非常に厳しい基準を設けている。ブランドを立ち上げて30年経つが、担い手の減少により、「天神みかん」を作っている農家は10件程度に減り、生産量の確保も難しい。みかんの木も30年以上の老木が多く、高品質のみかんの確保も難しくなっている。部会でも知恵を絞るが、木を更新して出荷できるようになるまで7年かかるため、なかなか現状を変えようとする農家が多いため対応に苦労している。

生産者の高齢化や、異常気象による気候変動という問題もあるが、より美味しいみかんを子供たちに食べてもらいたい。

せっかく「天神みかん」というブランドがあるので、少しでもブランドの維持、向上のため努力し、いろいろ模索しながら頑張りたい。

会長

みかんの木の更新に7年かかるので、地域をあげてやらないと高齢の方は難しいのかなと思う。個人的にも柑橘が好きで、防府には天神様があるので防府天満宮の御神幸祭の時期（11月末）に贈答用として5個セットにして販売するとか、他の地域のみかんが出荷される前に販売するなどの取組を考えるとブランドのPRにつながるのではないかな。

せっかく「天神みかん」というブランドがあるので、何かできないかと市の担当課に投げかけたところ。

K委員 | やさい部会で春菊を作っているが、幸いにしてこの部会は半数以上が新規就農者。皆様と言われるブランド化についても、農協の指導や、県、市と協力して、私どもの大きな目標に掲げていく。

小松菜については、JGAP認証の審査が5月22日、23日に実施されるので、認定された際には宣伝していきたい。

また、春菊について、昨年、下関から岩国までの25名程度の県のサポーターの方をほ場に招待して説明し、生で食べていただいたが、生で食べられることをご存知なかったということがあり、PR不足を痛感した。

ここにいる方はそのような事はわかってらっしゃると思うが、消費者にどう伝えていくのかという事が今後の目標。

新規就農の確保は引き続き進めたい。PR等を行い、やる気のある、儲かる農業にしていきたい。

会長 | 農協と市、地元農業者と一緒に頑張ってしっかりPRしていきたい。

L委員 | 先ほど玉ねぎの話があったが、昔は防府市全体でかなりの生産量があった。私も個人で多い時は1.5ha作っていた。家のまわりにも玉ねぎを作っている農家はかなりいた。国の事業で地元を選果場もできて、多い時には20トン/日を北九州に出荷していた。玉ねぎに関しては様々な地域を視察したが、淡路や観音寺、佐賀などの大産地は法人が多いと感じた。

儲からないから若者が農業に魅力を感じないという現状があると思うが、以前、福岡のみい農協で「あまおう」の出荷を視察した際、全てコンピューター管理されていて、ベルトコンベアで保冷庫までいくのに驚き、儲かるから若者が率先して親の後を継ぐ、おもしろいから後を継ぐという話を思い出した。皆さんが良い意見を出されても、儲からないと若者がついてこない。うちの息子もそうで、手伝ってくれないのが現状。人がやっていない何かをやればいいが、高齢化であと5年しかできない体制になっているのが現状だが、また、皆さんの意見を聞いて、地元で検討していきたい。

会長 | 儲かる農業に取り組んでいくという事は大きな課題だと思う。

M委員 | 大道で法人の代表をしている。法人化すれば必ず儲かるというわけではないが、個人よりは相当良いと感じる。できるだけ早い時期に法人化するべきではないか。税金対策、機械更新の積立、法人間連携による農機の共同利用などでメリットがある。しかし、農機の共同利用では、大きい機械は水の管理の問題もあり使用時期が重なるためやり繰りが難しい。年に数回しか使用しない機械や時期も重ならない機械であれば、貸し借りはできる。

先ほど話された農機レンタルは個人の農家さんが高額な農機の更新ができない場合を想定された話だと思うが法人はそういう形でやっている。

鳥獣被害について、昨日岩国で熊がでたというニュースがあったが、GW 期間中に私の地域でも熊が捕獲された。イノシシは毎年出ており防護柵もあるが隙間をみつけて入ってきて、被害が大きい。市の事業で、無償で防護柵を提供いただいて地元で設置するという事業があるが、完全ではないため電柵と併用しているほか、年間20頭近くは捕獲もしている。クリーンセンターで捕獲したイノシシを処分していただけるのは大変助っている。サルも多く、花火で脅してもすぐにも戻ってきて、山に追いやるのが難しいのが現状。サルが好むものをできるだけ作らないというしかない。玉ねぎ、人参、しいたけは食べないのにいたずらで抜いていく。

会長

集落営農法人のメリットのご意見ありがとうございます。

有害鳥獣について、私も連休中に捕獲された熊の現場を見に行ったが、民家から30mしか離れていない場所だと聞いた。

イノシシも県事業でかなり対策をしているが減らない。防府市にはシカがいなくてまだ良いのかもしれないが、県内西部地区は大変な地区もある。鳥獣被害対策もしっかりしていきたいと思う。

N委員

平成の早い時期にはほ場整備し、法人経営もやっていたが、経営状態も良く、農業をやるのであれば法人化された方が良い。レザーファンもほ場整備のおかげで、JAが土地を組合員から借り入れ、ハウスを設置し栽培者を募集してきており、高齢化などで栽培をやめられても、新たな担い手が入ってこられる。レザーファンは10年に一度木の更新が必要だが虫もつきにくく、年配の方でも取組やすい作物ではないかと感じる。

現在新規就農を目指す若者が農大で勉強中。

会長

来年は農大の卒業生が就農されるということだが、最近は新規就農されても続かないということも聞くのでしっかりとした指導をお願いする。

O委員

工事の完了は7～8年後になると思われるが、小野地区ではほ場整備の準備を進めている。そのための調査事業予算も計上いただきお礼を申し上げる。現在22人のメンバーがいるが、ほとんど70代で、60代は私を含め4名。ほ場整備が完成する頃には、担い手の更なる減少が予想されるため法人化の検討も進めている。先ほどから、法人経営の利点をお話いただき、大変うれしく思っているが、まだ信じがたい面もあるため、メンバーへの報告は様子を見たいが、法人化については、また教えていただくとありがたい。小野地区は中山間地域で、皆がそれほど大きなほ場を持っているわけではない。趣味の世界でやられている方も多く、理解を求めるのが難しい部分もあるが、将来的に法人でそれらのほ場の面倒を見るのでという話をして、皆に理解を得ながら進めている。

費用対効果にはとても気を付けているが、将来的には所得向上等のために大豆をやりたい。防府はあまり大豆の生産が盛んではないが、大道や徳地の法人と連携して、皆さ

んでやろう、大規模にやろうという話になれば、J Aや市にも施設の建設の相談をしたい。

また、農機や施設について、徳地とは気候も違うため、農機の使用時期が重ならず、共同利用の話をすることもあるし、ライスセンターも一緒に考えていくなど、そういう話ができるような場があれば個人的には助かる。

会長

大豆の話があったが、防府の農業を振興するうえで大変大きな視点とを感じる。施設整備や行政からの支援の話も出てくると思うが、J Aさんとも連携してやっていき、防府市全体をどのように盛り上げていくかだと思うので、しっかり検討させていただきたいと思う。

J 委員

労力支援、労力提供の部分で、農大生以外のサポート体制について、周防大島町や愛媛県の実例を参考にしながら、農繁期のサポート体制があるとありがたい。

農繁期だけという都合、全国的に労働者不足といわれている時期に難しいとは思いますが、是非お願いしたい。

会長

産地をいかに残していくかが大きな課題のように感じる。

さて、今日は山口県立農業大学校長がオブザーバーとしてご出席いただいているが、農大の話、担い手対策などの観点からお願いします。

山口県立
農業大学
校長

冒頭から農林業の問題や課題について、「ひと」、「もの」、「土地」という分類でまとめておられ、担い手に関する課題も多くあるが、最近の学生はほとんどが非農家で、漫画本や映画の影響を受けて入校する学生も多くいるが、祖父母が農業をやっており、子供のころに五感に触れる体験をしている学生が多く、その影響もあり農業を志すのではないかと感じる。

また、物心ついた時からスマートフォンが身近にあり、SNS を使ったコミュニケーションで私たちが驚く以上の情報交換をしている。法人や研修先の情報など、我々が思う以上の情報が行き渡っているのかなと感じる。

今の若い世代にもっと期待しても良いのかなと感じる。

会長

委員の皆様ありがとうございました。

ご意見やご提案は、しっかり持ち帰って関係者で丁寧に議論させていただき、可能なものは対応させていただきたい。それを進めるためにもJ Aや森林組合をはじめとする関係者の皆様の協力が必要。

なお、先週、「農林業の知と技の拠点」形成に関する地元説明会を行ったが、大きな反対もなく、歓迎の声が多かった。私もまもなく市長就任1年を迎えるが、選挙公約でもあったので安堵するとともに、ある程度自信を持って防府市の農林業の振興に努めてい

くという手ごたえを感じた。

どうかこれからも皆さんのお力添えをお願いします。

それでは以上で、閉じさせていただく。本当に、本日は皆様ありがとうございました。

閉会